

令和6年度 小中一貫教育・CS推進連絡会議

「さつない学園」  
生徒指導交流  
特別支援教育交流の報告

令和6年7月11日

# 内容

## さつない学園における

- ▶ 1. 生徒指導交流について
- ▶ 2. 特別支援教育交流について

# 生徒指導交流について

## ★実施形態

毎月、学園各校（札内中、南小、途別小）の教頭、主幹教諭、生徒指導担当1名が自校の生徒指導関係の資料を持ち寄り、交流を行う。課題を共有し、学園の生徒指導に生かす。

学期に1回、さつない学園の「こころ部」の「生活のきまり部会」が集まり、生徒指導等の交流を行う。

# 実績

- ▶ 第1回生徒指導交流会(4月26日)
- ▶ 第2回生徒指導交流会(5月22日)
- ▶ 第3回生徒指導交流会(6月28日)
- ▶ 第4回生徒指導交流会(7月29日予定)

○不登校児童・生徒について

○生徒指導上の課題について

○学校行事の様子について

○校外生活、地域の公共施設の利用について

☆各校の成長している点やうまくいっていること自慢

うちの子たち、本当にかわいいんです！！



# 良かった点

- ・小、中学生が公園で遊んでいる様子を情報として得ることができた
- ・生徒指導交流を行うことで、兄弟の学習状況・生活状況・家庭環境がより詳細に把握でき、気になる児童の対策に繋がっている。具体的には、欠席連絡・遅刻連絡がない家庭のフォローや欠席が多い家庭への対応など
- ・生徒の情報を通して、小中の先生方の関係が築けたことが大きいと感じた。なにか起こったとき、情報を共有したほうがいいときにスムーズに話ができると感じる。
- ・兄弟、姉妹関係から不登校生との情報を得ることができ大変ありがたかった。
- ・途別小だけ離れたところに位置しているので、今まで他校の子どもたちの様子をなかなか掴めなかったが、他校の子どもたちの様子や抱えている問題の一部が見えて、大変良かった。中学校に向けて、途別小にいる間に指導しておかなくてはいけないことがあることを実感した。

# 改善点

- ・今後も月に一度交流できるとよい。
- ・決まった先生だけでなく、いろいろな先生方が交流に参加し、自分事として学園に通う児童・生徒を大切に思えるような取組になると良いと思った。

# 感想など

- ・小学校では小学校卒業生、中学校では小学生時の学校での様子を交流することができる。
- ・交流することによって、今後の指導に役立てることができる。
- ・忙しい中ではあるが、今後も継続していけるといいと思う。必ずやっていてよかったと思うときが来ると思う。
- ・定期開催を積み重ねていくことが大切だと思う。特に新たな問題がなくても地域の子どもたちのことを小中の先生が集まり、子どもたちの良さを語り合ったり、課題を共有し合ったりすることに大きな意義がある。そこで話し合ったことをCSの会議で話題に出すことも有効だと思う。

# 特別支援教育交流について

## ★実施形態

学期に1回、学園各校の管理職、主幹教諭、特別支援教育コーディネーターが集まり、更なる情報共有の充実のために、特別支援教育の現状と主に進路指導について交流を行う。また、必要に応じて、適宜開催する。（今年度は、1学期に実施予定）

昨年度は、2学期中盤に「小学校6年生の現状と中学校での特別支援体制、中学卒業後の進路」について共通理解と確認を行う交流をもった。

# 良かった点、改善点、感想など

## 良かった点

- ・小学校6年生の情報を早めに伝えることができた。
- ・中学校の支援学級の実態や進路の情報について知ることができた。
- ・入学前教育相談、面談を行い中学校としての受け入れ体制を確立できる。
- ・9月に児童・保護者を対象に説明会見学会を行い安心して入学してもらえる環境を整えられる。

## 改善点

- ・互いの校種で知りたい情報が伝えあえているかが心配。

## 感想

- ・今後も互いの学校の意見を大切にしていきたい。

# 最後に

どちらの交流会も開催については、苦勞する面もあるが、地道に続けていくことで、必要な情報が共有できたり、地域の課題が明らかになったりと、指導に生かすことができ、今後よりよい成果が期待できるという実感が得られた。

ご清聴ありがとうございました

